

令和6年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修 研修レポート抜粋

(誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります)

県北会場

科目 ⑮放課後児童支援員の仕事内容

- ◆ 子ども一人ひとりと集団全体の生活を豊かにしていくための育成支援を行うことが、主たる仕事であるという前提のもと、その豊かな生活のために保護者や関係機関との連携を密にすることが必須であることを改めて認識した。退会に繋がるような事態は、児童の居場所の選択肢を奪うことと同意であり、全体でフォローしながら預かりを進める必要があると感じた。
- ◆ 子どもにとって、児童クラブが安心して過ごせる生活の場であるよう、我々支援員は信頼できる存在でありたい。そのためには、安心できる迎え入れが大切である。私は必ず笑顔で「お帰りなさい。」の声かけをし、来所時の子どもの様子を把握し、お迎えまで楽しく過ごせるように心がけている。子どもたち、特に低学年は、自分の気持ちや伝えたいことを表現できるようにお手伝いし、今後も、クラブでの生活に主体的に関わることができるようにしていきたい。
- ◆ この仕事は、健全な育成支援を行うことであると思うが、楽な仕事だとイメージを持たれやすいと思う。子どもの対応の絶対的なマニュアルがない分、個人や状況に適した対応、安全に過ごすための環境づくり、命を預かる責任感や学校、地域、保護者との連携等常に考えて行動しなくてはならないと感じた。こどもの成長を援助するとともに、日常のやりとりを大切にしながら、自分自身の成長を目指すことで、事業内容の向上につなげていきたい。
- ◆ 保護者への伝え方、接し方が大切で、また、「いつ、誰が、どのように」など支援員間で、情報共有や話し合いを行うことが必要と感じた。さらに、肯定的に接することや、相手を知りたいと思うことが大切だと思った。これは、子どもへの伝え方、接し方でも同様であり、言語化されていない子どもの気持ちをくみ取る、考え方の違いを認め合えるように導くなど、支援員の自己研鑽、自己啓発の必要性を認識しました。
- ◆ クラブで過ごす人（子ども）と申し込む人（保護者）がバラバラなところが子どもに関わる仕事の難しさなのだといつも感じています。どちらの満足も得る必要があり、どちらか片方から見れば満足できる内容でも、もう片方が満足していないという可能性があるからです。全ての人の満足に応えることは難しいかもしれませんが、少しでも叶えるために場所の配置や教室の使い方、教室にある遊び道具などを、もう一度スタッフ感で話し合い、環境を整えていきたいです。